

京大数学教室近況報告

令和元年度 数学・数理解析専攻長
加藤 毅

1. 構成員 令和元年度の数学教室構成員は、教員数 56 名で、その内訳は、教授 19 名 (高等研究院 1 名), 准教授 20 名 (国際高等教育院 1 名), 講師 1 名, 助教 8 名, 特定准教授 2 名, 特定講師 1 名, 特定助教 5 名です。また客員教員が 6 名です。数学教室をサポートする体制として数学事務室に 9 名, 図書室に 3 名, 用務員室に 2 名の職員がおられます。

2. 主なプロジェクト活動

数学教室が取り組んでいる活動として、KTGU 数学ユニットと MACS 教育プログラムがあります。

(a) KTGU 数学ユニット 昨年度に引き続き並河ユニット長のもと、KTGU は以下の活動を行いました。

- 海外の著名な研究者を招聘し、特別講義を開講,
- 海外副指導教員による大学院生に対する共同学位指導の実施,
- 大学院生への海外渡航支援、学部セミナーの開催。

今年度は

特別招聘教授 6 名 特任招聘教授 1 名 特任教授 10 名 コース修了認定者 1 名

となっています。特任教授は副指導教員となるための身分です。今年度は 1 名の大学院生が海外の副指導教員に合計 3 か月以上指導を受け学位を取得し、またスーパーグローバルコースを修了しました。

KTGU 事業の一環として、コチュテールという制度を昨年度より開始しました。コチュテールとは学生個人に対して協定を結び、1 つの学位論文で海外の大学と京大で 2 つの学位を出す制度です。今年度は早速エコール・ノルマル・シュペリウール・リヨンの院生がこの制度を利用して、昨年度 2 月から今年度の 8 月までの半年間、数学教室に滞在しました。

KTGU 事業の一環として夏季休暇中の 9 月に学部 1,2 回生を対象にした合宿型勉強会吉田塾を開催しました。

(b) MACS 教育プログラム

MacS 教育プログラムは、理学研究科のサイエンス連携探索センターが行っている事業の一環で、平成 28 年度に始まりました。目的は、数理を基盤とした理学 5 分野を横断する融合研究を促進し、新たな学問分野の自発的創出を促すことと、それに対応できる優れた若手研究者を育成すること、となっています。そのため、理学研究科の複数の専攻の教員と学生からなるスタディーグループが組織され、分野横断型の教育と研究が行われています。今年度は 13 のスタディーグループが活動を行いました。

(c) アジア生命保険振興センター (OLIS) との共催により、OLIS-京都大学数学教室保険フォーラムを 6 月に開催しました。参加者数は 107 名で大規模なイベントとなりました。

3. 教職員の異動

教職員の異動についてお知らせします。今年度は、4 月に着任した教員はそれぞれ、楠岡誠一郎准教授、宮路智行准教授、中安淳特定助教です。10 月に着任した教員はそれぞれ、金沢篤特定准教授、大井雅雄特定助教です。また前川泰則さん、加藤周さんがそれぞれ教授に昇進しました。12 月に着任した教員は大場貴裕助教です。皆様の数学教室でのさらなる活躍を期待しています。

また 3 月末をもって、並河良典教授は数理解析研究所教授として、浅岡正幸さんは同志社大学教授として、佐藤康彦さんは九州大学准教授として、榊原航也さんは岡山理科大学講師として、それぞれ異動されました。皆様の数学教室におけるご貢献に感謝するとともに新天地でのご活躍をお祈りいたします。

3 月末をもって畑政義准教授が定年退職をされました。畑准教授の数学教室における教育・研究・運営に対する、これまでの多大な貢献に深く感謝するとともに、新天地でのご活躍をお祈りいたします。

職員では、長年数学教室事務業務で貢献されてきた篠崎由加里特定業務職員が 3 月末に退職されました。なお篠崎さんは今後同窓会事務で活躍いただいています。引き続きどうぞよろしく願いいたします。水田華子非常勤事務職員はご家族の都合により退職されました。山口真友美非常勤事務職員は、情報学研究科に非常勤事務職員として異動されました。水田さん、山口さん、これまでありがとうございました。

4. 受賞

今年度の教員の受賞についてご報告します。

日本数学会建部賢弘特別賞 高棹圭介 特定准教授 (令和元年 9 月)

現象数理学三村賞 坂上 貴之 教授（令和元年12月）

日本学術振興会賞 前川泰則 教授（令和元年12月）

日本数学会応用数学研究奨励賞 榊原航也 特定助教（令和2年3月）

日本数学会春季賞 尾高悠志 准教授（令和2年3月）

日本数学会 JMSJ 論文賞 日野正訓 教授（令和2年3月）

5. 高額寄付

今年度は、個人の篤志家による数学教室へ的高額寄付が一件ありました。大変感謝するとともに、教室の教育・研究への貴重な財源の一つとして大事に使わせていただきます。

6. その他

- 例年2月に開催していた修士課程外国人留学生学力考査を廃止し、8月に実施される修士課程学力考査に統合しました。
- 学士学位記授与式は、新型コロナウイルスの感染症対策のために中止になりました。
- 新型コロナウイルス感染症対策による教室運営への影響について、暫定的にご報告いたします。数学教室では、全学での対応に先んじて対策の検討を始めました。かなり早い段階で、危機管理対策委員会を設置したオンライン講義の準備を始めました。Zoomを利用したことがない教員が少なくない中で、オンライン講義の教務設計やその利用法に関する学生または教職員向けの講習会を実施するなど、教室構成員の多大な貢献に支えられ、一部の専門科目は予定通り令和2年4月初旬に開講できました。また全学共通教育科目についてもゴールデンウィーク明けに開講されています。

これまで不要・不急の外出自粛を継続して自宅や下宿に籠もってきた学生、教職員や研究員の体調不良などの二次災害が発生しないよう、今後は注意深いケアも必要と考えています。

3号棟南の桜について

平成30年度 数学専攻長
雪江 明彦

2018年9月上旬に日本に上陸した台風21号は近畿地方に甚大な被害をもたらしました。数学教室でもその強風のため中庭のオリーブをはじめ多くの木が倒れました。ほとんどの木は立ち上げて支えなどで補強して復旧しましたが、3号棟南の桜は幹が折れて復旧することができませんでした。その年度私は専攻長でしたので、倒壊した桜の代わりに植樹することを考えました。その場所は数学教室というよりは理学研究科が管轄でしたので、今は退職された篠崎さんと相談して理学研究科の予算に申請しました。その検討には長い時間がかかりましたが、結局理学研究科からは予算がおりず、数学専攻の運営費で桜を植樹することにしました。日本の桜としては染井吉野が一般的ですが、どこかで今は違う種類の桜が推奨されているということを知ったような記憶がありましたので、調べて「神代曙」という種類の桜を植えることにしました。染井吉野は綺麗な花が咲く桜ですが、「てんぐ巣病」という病気に弱いことが知られています。

1912年に日本からアメリカに染井吉野が贈られましたが、その染井吉野と別品種の桜が交雑した結果、Akebonoという品種が誕生しました。そして1965年、この曙がアメリカから日本へ逆輸入され神代植物園で接ぎ木して育てられていましたが、そのうちの1本がAkebonoとは異なる特徴を持つ花をつけました。これが神代曙です。この神代曙はてんぐ巣病には耐性があると推定されています。他にも染井吉野の代替品種はあるようでしたが、この神代曙がよいように思いましたので、これを植えてもらうように業者に依頼しました。木を植えるのは冬に葉が落ちた状態で植えるのがよいようで葉が落ちるのを待っていましたが、暖冬のためなかなかそうならず、2020年の2月頃ようやく4メートルほどの神代曙を植えることができました。グラビア“神代曙”ページの中段左の写真が3月下旬に少しだけ花が咲いた写真です。植えたばかりですので、15輪ほどしか咲きませんでした。来年の春にはもう少し花を見せてくれるのではないかと思います。花をアップで撮った写真も2葉載せてあります。染井吉野よりは色が濃いですが、上品な色の花だと思います。